

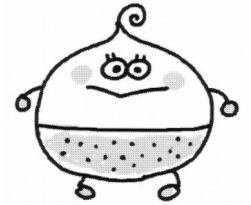
HDM推進会（第 54回）／ごみゼロネット推進会（第 76回）議事録

開催日： 2014 年(H26 年) 9 月 10 日 (水) 10:00 ～ 11:45

場 所： コミュニティサロン・はけ

出席者： 大橋、加藤、平林、杉本、川村、桐生（作成）

議 題：



1. 資料「ごみ生ごみの動き」（加藤氏作成 2014/9/10 付け）についての説明

小金井市：①新可燃ごみ処理施設に係わる環境影響評価の閲覧・意見募集（日野の焼却炉の全ての計画内容が記述されている）、②ごみ処理基本計画策定審議、③ごみゼロ化推進会議議長⇒竹内氏

三市共同処理関係： 10/8 13:30~16:30、小金井市前原暫定集会所B会議室（午前中ははけでHDM推進会）

その他： 10/11 「ごみ・環境ビジョン 21 市民ごみ大学セミナー」 13:30~16:30、国分寺労政会館

2. 三市可燃ごみ共同処理（広域化）における生ごみ減量について（加藤氏作成 2014/9/1 付け）各項説明と討議

10/8 の第 2 回三市市民ごみ問題協議会で討議資料として提出予定。日野市、国分寺市のキーマンと会合を持って調整済み。当会でも内容の箇条審議をした。その過程で次のような重大な問題が浮かび上がった。

(1) 右表は「平成 24 年度ごみ・資源物処理経費」（総務省）

の我々に関係深い都市のごみ処理費用である。小金井市の高さは全国一で、際立っている。

都 市 名	円／人	円／ト
清瀬市	9,360	36,511
日野市	13,590	45,452
国分寺市	20,033	71,120
小金井市	30,926	133,004
多摩平均値	15,654	54,836

(2) 掛川市と小金井市は人口もごみ発生量もほぼ等しいが、

年処理費用は掛川市 10.7 億円、小金井市 26.1 億円。

(3) リサイクル率では小金井市は全国一レベルの 48 %、

掛川市は 10 数%。掛川市は紙資源回収は民間任せ、

粗大ごみは集積場に市民が持ち込む等、収集に金を掛けないシステム。これが大きな差の原因。小金井市のごみ対策課はごみ焼却場建設の不幸のアルバイ作りのために、金をかけてリサイクル率日本一の虚名を取っている。掛川市のように地味に経費節減の実を取って欲しい。

(4) 小金井市の「H25 年度ごみ処理基本計画」では「H25 年度燃やすごみ 12,745 ト」である。この中には「事業系」「木質粗大ごみ」「布」など現在の広域支援の焼却には含まれていないものが加わっており、他市にお願いしているのは 12,000 ト未満である。しかるに三市共同処理の焼却炉建設の「基本計画書」で小金井市は「H32 年度燃やすごみ 15,136 ト」としている。非常に悪質なデータ操作である。市会議員もこれを認めているのか。市民を欺く行動ではないか。

(5) 日野市の段ボール・コンポスト運動目標 10 %世帯、ごみ処理有料化等のごみ量低減効果を勘案すると、三市共同処理焼却炉の必要能力は250トから160トまで減る。

(6) ふじみ衛生組合のごみ火力発電は 9,700kW の公称能力であるが、実態は 1 炉運転で 3,700kW(38%稼働)

に留まっている。発電効率 25 %と称しても、年間総発電効率は 9.5 %なのである。全国、どこを調べてもほぼ同様である。経産省が補助金を出してごみ発電を勧めるが、このため焼却炉の予算が 3 割以上も増え、日野市の場合も煙突に並ぶ位の高さの壮大な建屋になった。こんなもの、本当は要らない。

3. 熊谷清掃社の新HDM処理施設での臭気問題の調査結果

- (1) 業務用生ごみはドラム缶で搬入するため、水分過剰状態が続き、一部嫌気性になった。家庭生ごみは水切りが出来ているのでこのようなことはない。
- (2) 排気量は毎分1,500 m³、建屋容積は10,000 m³、毎時7～8回の換気量である。
- (3) 脱臭法には自信があったが、県は活性炭方式以外は認許してくれなかった。不本意な結果である。次回以降、小金井でHDMを建設する場合にやるべき、臭気対策についても討議する。

以上

次回打合せ 10月8日 (水) 10:00～12:00 コミュニティサロン・はけ
1 / 1